第２学年３組　特別の教科　道徳学習指導案

令和３年６月 10 日（木）第２時限　２年３組教室

１　主題　　やくそくをまもっていても　Ａ－（1）〔善悪の判断,自律,自由と責任〕　１時間完了
　　　　　　教材名「ユウタくんのしゃしん」　自作教材

２　構想

（１）児童の実態

４月にマイタブレットのスタートプログラムで、「情報モラル・情報セキュリティチェックシート」を用いてアンケートを行うと、９割近くの子どもたちが正しく答えることができた。「これは、先生がいいって言っていないから×だ」「これは、勝手に写真を撮っているからだめだね」といった発言もあったことから、子供たちは「タブレットを使うときの約束」をしっかりと理解して、それをもとにしてよいかどうかを判断しているのだと感じた。また、実際にタブレットを使用するときも、その約束をきちんと守って使おうとする姿が見られた。

（２）単元についての考え

本主題では、情報を送るときに相手の気持ちを考え、責任をもって行うことができるようにすることをねらいとする。そこで、「タブレットを使うときの約束」をきちんと守り、相手の許可を得て撮った写真が、結果的に相手を傷つけてしまった事例をもとに、何に気を付けて情報を扱うべきかを一人一人が考えられるようにしたい。

まず、子供たち全員が教材文の内容を理解したうえで考えることができるようにするために、教材文と似たような状況を体感する機会をつくり、それを共通体験とする（手立て①）。子供たちはタブレットでそれぞれ写真を撮り、アプリを使って撮った写真を共有する。そのとき、気に入ったものに「イイネ」ボタンを押したり、それによって友達から評価をされたと感じたりできるようにする。次に、前半でのユウタくんの心情を押さえるために、教材文の前半と後半を分けて提示したり、ユウタくんの心情が視覚的に分かるようにしたりする（手立て②）。後半での落ち込む「ユウタくん」の様子に影響されず、前半のユウタくんの気持ちを考えられるようにしたい。また、「ぼく」がユウタくんの変な顔の写真を撮るとき、ユウタくんは嫌がっていないことや、ぼくは「タブレットを使うときの約束」を守って相手の許可を得ていることをおさえたい。そして後半で、ぼくの気持ちを考えるとき、子供たちから「ユウタくん、ごめんね」「ぼくが悪かった」というような意見が出されることが予想される。そこで、何に対しての「ごめんね」なのか、何が悪かったのかを問い返したり、「ぼくは約束を守り、ユウタくんからの同意も得ていたこと」を取り上げて、揺さぶりの発問をしたりする（手立て③）。この授業を通して、約束を守ってタブレットを使用していても、友達を傷つけてしまうことがあることを理解し、情報を発信する際にどんなことに気を付けるとよいかを考える機会にしたい。

３　指導計画（１時間完了）

	学習課題	手だて
（関連：算数科）	みのまわりから、10cm くらいの長さのものを見つけよう（算数科）	①
道徳　本時	タブレットでしゃしんをおくるとき、どんなことに気をつけるといいかな	①、②、③

4　本時の指導　（1／1）

（1）ねらい

タブレットの共有機能の不用意な扱い方で、友達の心を傷つけてしまう事例から、他者の情報を大切に扱うことの重要性に気付き、情報を適切に扱おうとする実践意欲と態度を育てる。

（2）展開

段階	児童の活動	教師の活動
つかむ （3）	1 タブレットを使った学習について思い出す。 ・たんぽぽの秘密を絵で描いたね。 ・写真を撮ってみんなで見たね。 2 本時の学習課題を把握する。	・共通体験から学習課題につなげられるようにするために、タブレットで写真を撮って共有したときのことを児童が発表した場合には、どんなことをしたか詳しく問い返す。
	タブレットでしゃしんをおくるとき、どんなことに気をつけるといいかな。	
かかわり合う （37）	3 前半の教材の範読を聞く。 4 変な顔をして写真を撮っているときのユウタくんの気持ちをワークシートに書き、発表する。 **【個の追究Ⅰ・かかわり合いⅠ】** ・ぼくの変顔で笑ってくれたぞ。 ・おもしろい写真が撮れてよかったな。 5 後半の教材の範読を聞く。 6 小さくなってうつむいているユウタくんを見たときのぼくの気持ちをワークシートに書き、発表する。	・変な顔の写真を撮ることを快く引き受けたユウタくんの気持ちを押さえるために、教材文の前半のみを範読をする（手立て②）。 ・「ユウタくんは写真を撮られることを嫌がっていないこと」、「ぼくはユウタくんに許可を得て撮影していること」が視覚的に確認できるように、ユウタくんが笑っている挿絵やOKマークを貼る（手立て②）。 ・主発問につなげるために、ぼくは何に対して謝っているのか、何が悪かったのかを問い返す（手立て③）。
Z	**【個の追究Ⅱ・かかわり合いⅡ】** ・ユウタくんごめんね。 ・ぼくのせいだ。 ・心の中ではいやだったんだね。 ・ユウタくんに送ってもいいか聞けばよかったね。 ・人の写真は、送らないようにした方がいいかな。	**「ユウタくんに許可を取って写真を撮ったのに、どうしてユウタくんは悲しい思いをしてしまったのかな。」** ・「ぼくはユウタくんに許可を得て写真を撮った」ことを踏まえて、ぼくの気持ちを考えられるようにするために、揺さぶりの発問をする（手立て③）。 ・次の活動につなげるために、「～すればよかった」と解決策を含めて発言することができた児童を称賛する。
ふりかえる （5）	7 タブレットで写真を送るとき、どんなことに気を付けるとよいか、ワークシートに書き込み、発表する。 **【意思決定の場・振り返り】** ・許可をもらっても、その人の気持ちを考えなきゃいけないね。 ・写真を送ってもいいか聞いてから送った方がいいね。	・根拠をもとにした意見を言えるようにするために、理由を付けて振り返りができた児童を称賛したり、理由を問い返したりする。 ・本題に合った振り返りができるようにするために、児童の意見を把握し、最後に意図的指名をする。 ・積極的に発表できた児童を称賛する。

（3）　評価

・登場人物の気持ちを考え、友達と意見を交流することを通して、タブレットで写真を送るときに気を付けることを考え、責任をもって情報発信することの大切さに気付くことができたか。（活動7の記述、発言から）

・情報を発信するときには、人の気持ちを考えて慎重に行おうという気持ちを高めることができたか。（活動7の記述、発言から）

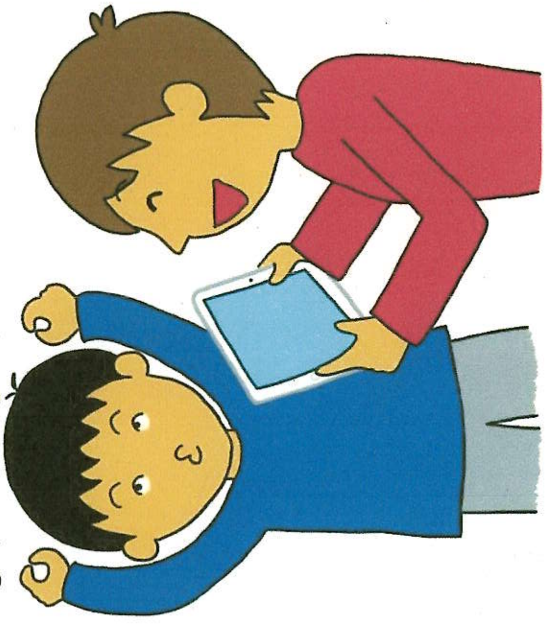
ユウタくんのしゃしん

名前（　　　　　　　　　　　　　）

タブレットでしゃしんをおくるとき、どんなことに気をつけるといいかな。

二年生になって、タブレットをつかって べんきょうすることが ふえた。タブレットでべんきょうすると、友だちが考えたことを見たり、「イイネ」をしたりすることができるから、おもしろい。

ある日、先生が「お気に入りのしゃしんをとろう」という かだいを出した。
「人のしゃしんを とってもいいけれど、とってもいいか かくにんしましょうね。」
と先生は言った。
ぼくは、「イイネ」が たくさんほしかったので、どんなしゃしんをとったらいいか 考えた。そして、なかのいい ユウタくんに 声をかけた。
「ユウタくん、あの おもしろいかおを、しゃしんに
とっても いいかな。」
「ああ、いいよ。」
と言って、ユウタくんは、口をとがらせて見せた。そのかおを、ぼくは しゃしんにとった。あまりにもへんなかおだったので、ぼくがわらい出すと、ユウタくんもしゃしんを見て、ケラケラわらった。このしゃしんなら、おもしろくて みんなも気に入ってくれる。そう思ったぼくは、そのしゃしんをていしゅつした。



● へんなかおをしてしゃしんをとっているとき、ユウタくんはどんな気もちかな？

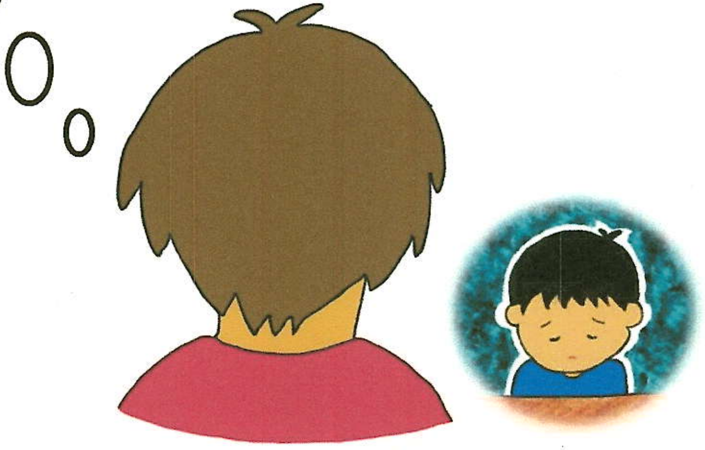
ユウタくんのしゃしん

名前（　　　　　　　　　　）

タブレットでしゃしんをおくるとき、どんなことに気をつけるといいかな。

みんなが　しゃしんを　ていしゅつしおわった。
「みんなが　ていしゅつしたしゃしんを　見てみましょう。気に入ったしゃしんが　あったら、『イイネ』ボタンを　おしましょう。」
と先生が言うと、みんなは　友だちのしゃしんを　見はじめた。
「ユウタのへんがお、たこみたい。」
「おもしろいね。」
『イイネ』しちゃお。」
ぼくがとったしゃしんを見て、教室の　あちこちから、わらいごえが　きこえてきた。そして、ぼくのしゃしんには、たくさんの「イイネ」があつまった。ぼくは、うれしかった。

ふと、目を上げると、一人　さびしそうな顔をしている子が　いることに　気がついた。ユウタくんだった。
ユウタくんは、じぶんのせきで　小さくなって　うつむいていた。



●小さくなってうつむいているユウタくんを見たとき、ぼくはどんな気もちかな？